



「新しい時代への開眼」

ルカ福音書二四…13～35

牧師 安藤 脩

日本の新しい時代・明治維新を導いた代表的な人物として、勝海舟、西郷隆盛、坂本龍馬は除外できないでしょう。この3人は互いに違う立場にありながら、共通のものを持っていました。それが聖書の教えであり、キリスト教でした。

勝海舟は遣米使節として渡米。広い世界を見た海舟の視野は広く、彼は開国論者となった。来日し東京商法学校(一橋大学)を開校したウイリアム・ホイットニーは、勝海舟の屋敷内に家を建てさせてもらい生活した。彼らの交わりは深まり、海舟の娘・孝子と逸子は早いうちに受洗した。又、海舟の三男・梅太郎はホイットニーの娘・クララと結婚し6人の子を儲けた。勝海舟の屋敷跡に現在、赤坂教会が立っている。それはホイットニーの長男・ウイリスが海舟から4百坪を買い受け、病院を建て病院伝道を行なったことが契機となっている。勝海舟も晩年になってキリスト教の信仰を告白した。

2017年夏号

日本キリスト教団

横浜岡村教会

〒235-0021

横浜市磯子区

岡村 4-25-39

TEL 045 (751) 3917

牧師

安藤 脩

西郷隆盛は民衆に聖書を教えていたことが明らかになっている。西郷隆盛の言葉として最も良く知られているのは「敬天愛人」である。その内容は「道というのはこの天地のおのずからなるものであり、人はこれにのっとって行くものであるから、何よりも先ず、天を敬うことを目的とすべきである。天は他人も自分も平等に愛したもうから、自分を愛する心をもって人を愛することが寛容である。」というものである。これは主イエス様が「『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』：『隣人を自分のように愛しなさい。』』と言われたのと合致している。

坂本龍馬は開国論者の勝海舟を殺そうと思つて訪問した。しかし、海舟の話に感服し門弟となった。彼自身が信仰を告白したかは定かでないが、竜馬の夢を受け継いだ姉の息子で坂本家の後を継いだ直寛は、北海道に渡り牧師となった。直寛の兄で竜馬の養子となった直をはじめ坂本家の全員がクリスチャンになった。聖書の教えを知り、キリストを信じる

来る。だから、滅び行く世界ではなく、新しい時代への目が開けるのである。

そのような新しい時代への目が開かれた最初の人々が、今日の聖書箇所に記載されている。彼らはイエス様の死で失望し、故郷へ帰る途中だった。でも、二人は話し合い論じ合っていたのだから、全く諦めていたわけではなかった。そこに復活の主イエス様が来られ、会話が始まった。「心が鈍く預言者たちの言ったこと」(25)を信じていなかった弟子たちは、同道者がイエス様であることに気付かなかった。「聖書全体にわたり、御自分について書かれていることを説明され」(27)でも、彼らの心の目は閉ざされていた。心の目が開かれなと、真理は見えない。讚美と祈り、聖餐(ここでは、主の手によるパン裂き)を通して主の臨在に触れたとき、彼らの心の目が開かれた。心の目が開かれるなら、もはや肉眼の目でイエス様を見れなくても不安はない。信仰の目をもって見、生きる、恵みの時代が始まったからだ。いつでも、どこでも復活のイエス様が共におられることを確信できる。それが、心の目が開かれた者の新しい時代である。「見ないのに信じる人は幸いである(ヨハネ 20:29)」とは、恵みの時代に生きる私たちのことである。

新役員抱負

役員になって

石川 新

この度、役員に選ばれた石川新です。よろしく願います。この教会役員に選挙で選ばれた時、とても不安でした。(今でも不安ですが)しつかり役を全うできるか、家庭と仕事と両立できるのかが心配でした。特に妻が第一子を授かり、出産準備などで時間がかかる中で引き受けるべきかは悩みました。

しかし、神さまは私たちに必要なものをご存知で、それを必要な時に与えて下さいます。それは、私たちの望んでいるものとは違うものや、想像していない方法でもたらされます。あくまでも「欲しいもの」ではなく、「必要なもの」なのです。

今回の役員の役目も、私にとつてはとても荷が重く、他の方に代わっていただけならなと初めは思いました。でも神様の示された道だと信じ、取り組んでいきたいと思います。役員の中で、私は教育部なので、アシユラムやJ.Cの活動の中でお役に立てればと思っています。

新役員の抱負

間宮 富子

「今でしょよ！」と言う言葉が心と身体に強く感じ響きます。決断力と行動力に乏しい自分がそこに居ます。

主の身体なる教会の一部分として、用いて下さる時は今だと思い、受けさせて頂きました。霊肉とも主に強められ助けて頂いて、新しい気持ちをもつて、最後まで奉仕を成して行けますよう精一杯、頑張りたく思います。

今、横浜岡村教会は牧師交代の時。その中であつて役員として、ぎりぎりの気持ちで緊張しています。兄弟姉妹、一人一人の心をつにして、主を見上げ、主に喜び感謝して、共に歩みたいと強く思います。

励まされる言葉に出会いました。「私は神を信じるがゆえに最善を尽くすが、その後は心配しない」(旧約聖書一日一章 著者 榎本保郎より。宣教百年の時教団の招きによって、オランダから来日されたクレマー博士が語られた。)



J.C新スタッフ抱負

J.Cスタッフを引き受けて

豊島 薫

1月の末頃、少しでも支えになればと思ひ、お引き受けしました。毎週ワークブック「成長」を熟読して臨みます。その巻頭言に「成長する種」のたとえ(マルコ四・26、27)を引用して、諦めずに子供達に伝える事が重要。すぐに結果は出ないかもしれないが：という文章がありました。まさしく私の事だと思ひました。小3の春。学校近くに教会が建ち、友達と二人で2度ほど礼拝に参加しました。祖母に反対され、3度目に行く事はなかったのですが、会堂に入って見た経験は大きかった。パーネットの「小公女」やドラマ「大草原の小さな家」を観ると底流にはキリスト教がある事が分かりましたし、母から聖書を貰ったのもそのころです。そうとは知らずに蒔かれた種は、今、私の中で実を結びつつあると思ひます。岡村教会の子供達には、安全な道を選んで通つて、とにかく健康に成長してほしいし、いつか必ず受洗の恵みにあずかる事が出来ますようにとお祈りします。

母の思ひ出

讚美歌「山路越えて」

関原 孝子

母が誕生日（4月30日）の前日89才で召されて、16回目の新緑の時を迎えました。母は小田原に生まれ、10才で母親を亡くし、弟の世話をしながら通学した子供時代だったようです。その頃、近くのある教会へ行き、讚美歌を覚えたと言っていました。音楽の好きな母で、「山路越えて」は私達が子供の頃からよく唄っていました。60代で目を病み、自分から教会へ行きたいと言い、1年後、野沢牧師より洗礼を受けました。この時までいつも「山路越えて」の歌詞が、母を励ましていたのでしょうか。礼拝に出席し、又、家庭集会で皆様と讚美出来ることを、とても喜んでいました。安藤牧師の讚美で、母が心地良いと感じる音域があるように、「そこで止っていて」と面白いことを言うユニークな母でもありました。

幼い頃、母に蒔かれた種は、妹、母、父、私達に芽吹きました。そして姪三人に拡がり、昨年には姪の子にも救いの恵みを与えて下さった主に感謝しています。

私の母

安藤 善枝

私の母は現在九十四歳で土浦のホームで暮らしております。朝、起きて食事をしてから午前中はたっぷり新聞を読んで、興味のある記事は切り抜き、ファイルをしていきます。このことがすでに母の長年の習慣となっている事が、（薄々は感じていましたが）この度の私どもの実家への転居の際の片づけで尋常ではない事が判明しました。大学ノートに綴った何年にも亘る毎日の日記、新聞記事のファイルを始め、山のような手紙の保存。多岐に亘った関心事のファイルは実に年輪を感じさせるものです。

今、母は耳がかなり遠くなりましたが、いつも自分が考えている事、人の安否など話したら止まらず、一時間二時間はあつという間に経ってしまいます。こちらもたじたじとなってしまうほどです。

母の所に泊りますと、夜、私が寝た後に切々たる母のお祈りの声が聞こえるのです。子供たち家族の事、友人の事、世の中の事、多岐に亘っての祈りの内容です。ああ、私達もこの祈りによって支えられてきたんだなあと思うのです。ただ父が健在の頃、食事の時、2人の祈りが実に長いので、中々食事が食べられなかった事が懐かしく思い出されます。

義母の思い出

関口 勢津子

義母が天に召されてから、4月13日で2年が過ぎました。45年の同居生活の中では、色々なことがありました。でも、自分の至らなかつたことや、こうしてあげれば良かったと思う事も多くあります。

義母は、クリスチャンの大先輩であり、104才の生涯をひたすら信仰の道を歩み、その姿は私達の模範となり、心深く刻まれています。天に召される前の2、3年は入退院を繰り返していましたが、病院ではいつも穏やかな笑顔で、看護師さん達の人気者になりました。また家に来て下さるヘルパーさんや、デーサービスの介護の方達からも、星子さん、星子さんと呼ばれ、「会うととても癒されます」というお言葉をいただいでいました。

神様の御言葉と共に歩み、忠実に従い続けて与えられた大きな恵みが、ここにあると思えました。これは私達家族に与えられた、義母からの遺産であり、失わずに受け継ぎ、また繋げていかなければと、母の日を迎え、改めて思う事でした。本当にあの笑顔が懐かしく思い出されます。



私たちの教会は、1949年8月7日、横浜福音医療宣教団根岸橋教会として設立され、1951年に、日本基督教団所属教会として承認されました。後に岡村3丁目に教会堂を建設して、横浜岡村教会となりました。

2006年、神様の御旨に導かれて、現在の地に新会堂を建設し、昨年、創立67周年の記念日礼拝を奉げました。

礼拝の中で、信仰歴50年以上、主の証し人として歩んでこられたことを記念して、11名の方々に、木の十字架の置物が贈呈されました。益々、主の御愛に守られて、後に続く人々に、信仰の良き証しを続けられ、主の栄光を現わされますように、お祈りいたします。

「主に望みをおく人は新たな力を得、驚のように翼を張って上る。走っても弱ることなく、歩いても疲れない」

(イザヤ40:31)
(今給黎美代子 記)



受洗後を振り返り

受けた恵み

早園 貞子

私は、昭和25年のイースターに洗礼を受けました。それから24年過ぎた頃に、大きな試練を受けました。突然首から肩にかけて痛み、牽引の治療を受けました。が思わしくなく、市大病院を紹介されました。診察室で先生に「貴方はこのままだと命にかかわる。手術をするので準備をして待っているように」と言われました。入院したのは6月16日、色々検査した結果、呼吸困難、右足の知覚麻痺があり、原因は脛骨が細くて神経を圧迫しているためで、脛骨と頭蓋骨の一部を削る。術後は絶対安静のため、40日間、頭に1.5キロの重りを付け、洗面食事は鏡を見ながらするようにと言われました。7月7日に手術。手術は成功し40日間の療養生活が始まりました。慰めになるのは御言葉のみ。日々読む御言葉はイエス様が語って下さるように、心の中に入りました。7月の暑い日、辛いことが無かった日はありません。その時イエス様に呼びかけると、御言葉が浮かんで来たり、讚

美歌を口ずさんだり、助け人が来て下さったり、辛さは恵みに変わっていきましました。40日が過ぎ、リハビリを受け9月に退院が決まりました。退院後の説明では、骨を削ったので転倒すると麻痺するよと言われ、又、首の骨の先端が曲がっている、小脳にあたって麻痺する危険が残っています。それが3年後か10年後か、貴方が80才になる頃か、神様にしか分からないと言われ、凄くショックを受けました。これからどう生きていけば良いのかと思いましたが。その時与えられた御言葉は、「あなたの道を主にゆだねよ。主を信頼せよ。主はそれをなしとげられる。」(詩篇37:5) 「人の歩みは主によつて定められる。主はその道を喜ばれる。たとえその人が倒れても、全く打ち伏せられることはない。主がその手を支えられるからである」(詩篇37:33-35) あれから40年過ぎました。ハツとする事もありましたが、守られ、主のご臨在を感じました。振り返ってみますと、40日の体験はとても貴重な事でした。今、私が平安に日々を送っているのは、御言葉の通り守ってくださる主がおられるからです。感謝。

特集・信仰歴50年以上の豊かな恵み

まつすぐな道

池田 昭夫

今年2017年3月で、私は89才になりました。高齢ですが健やかに過ごしています。主の恵みなのだと思います。

さて、私の青年時代は、戦中戦後で食糧事情が一番悪い時でした。そして家族が多い事もあって、苦勞の連続でした。生きている事の虚しさに悩んでいました。生きることの困難と、どうにでもなれと自暴自棄になった事もありました。でも父がクリスチャンであったので、一緒に信仰の道に進めた事を感じています。自分で生活する中で、これで良いのか、この先どうすれば良いのかと考えると、心の中は満たされることなく、日々が過ぎて行きました。信仰の道に入ったばかりで、理解する事が浅かったので、思う事が鈍かったのだと思います。主を信ずることこそ、自分に課せられた事と思ひ出されます。

「心を尽して主に信頼し、自分の分別に頼らず、常に主を覚えてあなたの道を歩け。そうすれば主はあなたの道筋をまつすぐにしてください。」(箴言3:5-6)

恵まれた私達

佐野勇松・淳子

「何時頃かな」カーテンの隙間から明るく陽がさしているから朝なんだ、思いながらうとうとと眠ってしまう、遠くからボーンコンとエレベーターの発着音として、コンコンとドアに音がして「淳子さん朝の食事を持ってきました」と声がある、声は聞いても起きれない体の事情がある。ゆつくり食べ始めると間もなく又トントンと今度は食膳を廻集する人である、終わってないことが多い。次は聖書だが毎回、今日ほどこと言う、二人で読む聖書と祈りは、結婚以来六十年続いている。「佐野さんの家はお祈りするのね」という職員がいる。祈りの終る頃にはトントン「ヘルパーです」とデーケアーに行く淳子の身支度の手伝いをする人が来る、保育園に送り出す家みたいだ、この頃にはケアセンターのバスが玄関に来て待っている。車椅子に乗せられてゆく妻の後姿を見ると、何とも言えない複雑な気分になる。時々俺たちの人生って何だったのか？と話し合うことがある。若い頃聖書に捕らえられた俺たちは逃げ

ることはできなかった。逃げられなければ、今まで通りなるべく近くにいたい。「どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによつて守るでしょう。」(フィリピ4章6-7節) 此の聖言に捕らえられて、平凡な日々を感謝して、今日にいたりました。



イースター特集

この冬は大雪が降ることもなく、比較的穏やかな日々が続きました。そして3月に入ると同時に、レントとなり、



主のご受難を偲ぶ時を過ごしてきました。例年行っている、寿町の炊き出しのため一杯のお米献品は、本年も実施することが出来ました。

9日の洗足礼拝では、2名の方の洗足式が執り行われました。これまでの信仰生活を振り返り、主が成してくださった恵みの数々を思うことが出来た良い時だったのではないのでしょうか。

受難週は、月曜日から木曜日の4日間、受難週祈禱会として行ってきましたが、今年の木曜日のみとなりました。しかし、8名の方が参加され、集中した熱心な祈りが捧げられました。

14日金曜日の受難日礼拝は、キャンドルの薄暗い光の中、聖書の御言葉を通して、イエス様の十字架の苦しみを改めて心に刻むことが出来ました。

そして、喜びに満ちた復活の朝、イースターを迎えました。横浜ろばの店のイ

ースタークッキーと、前日に牧師夫婦が中心となって作ったイースターエッグを全員にプレゼント。JCでは、教会内に隠した卵を探し当てるといふ企画が準備されていました。子どもたちが目の色を変えて、必死に探す姿があり、とても微笑ましい光景でした。

礼拝後長年続けてきたもちつき会を今年中止しました。その代り愛餐会と、上大岡墓地の教会納骨堂において、墓前礼拝を行いました。愛餐会では、安藤牧師夫婦の讃美や、影絵の披露があり、楽しく過ごすことが出来ました。そして墓前礼拝では、先達の思い出などを語り合い、御国と一体になれたような素晴らしい時でした。

来年は4月1日がイースターです。私たちの教会も牧師先生が交代となる、新しい年度のスタートです。少し気が早いですが、希望に溢れた喜びのイースターを迎えられることを、今から心待ちにしています。



墓前礼拝に参加して

菅野 美穂

今年はいースター礼拝、愛餐交わりの時を過ごし、上大岡墓地に墓前礼拝に行きました。

天候に恵まれ納骨堂への急坂もお互いに声を掛け合いながら、イースターの喜びの時を感じながら進む事が出来ました。暖かい日差しの中、讃美をし、先人の方々を思い、岡村三丁目教会の古い建物、夏季学校、クリスマス、日曜学校など、一緒に礼拝した日々を懐かしく思い起こしました。

神様がそれぞれを愛し生涯を祝福して下さっている事。安藤牧師を通し、感謝の時を頂きました。ふと学生時代に讃美した賛美歌二編の歌を思い出しました。

夕日影うすれゆき、我が行くて遙けし
されどかの明星は、我が胸に輝く

昔し良く理解できなかった歌詞が心に響いてきました。

いついかなる時も、我が胸に輝く明星を仰ぎながら歩んで行きたいと思えます。

関東こころの友伝道

講習会の恵み



牧師・安藤 脩

今年の関東こころの友伝道講習会は、私にとってチャレンジの講習会でした。関東こころの友伝道の事務局長としてというよりは、清水ヶ丘教会の姉妹教会の牧師として、会場を清水ヶ丘教会にしてはどうだろうかと提案しました。それは、訪問伝道が日本に紹介された時、清水ヶ丘教会の初代牧師・倉持芳雄師も中心メンバーの一人として参加していたからです。現在、清水ヶ丘教会は取り組んでいないので、どうにかしてこのムーブメントに再度、取り組んで欲しいとの願いからでした。清水ヶ丘教会が会場教会を受けてくださり、21名の最高の参加者数でした(当教会からは14名)。それだけでなく、神奈川教区の伝道委員長も参加くださり、教区の伝道協議会でこのこころの友伝道に取り組むことを約束くださいました。思いに勝る恵みでした。

私も開会礼拝で「福音のためなら、どんなことでも」という、パウロの福音宣教への情熱と、愛を取り次げました。

井上 鈴枝

初めてこころの友伝道集會に参加したのは2011年の御殿場全国大会でした。それは安藤牧師から、義父が救われた伝道実証をしてみませんかとすすめられたからです。大会では、義父と共に聖書を読み、祈り、主に救われた経緯を証しました。その時の恵みと感動を忘れることはできません。それからは、毎年こころの友伝道集會に参加するようになりました。

今回の集會は5月5日(金・祝日)清水ヶ丘教会で開催され、講師は須藤繁先生でした。講演のテーマは「天に大いなる喜びが」という内容でした。そのメッセージから、こころの友伝道は牧師と信徒がパートナーとなり、互いに祈り合い、協力と信頼を持って伝道することが重要だと感じました。また昼には、こころの友伝道講習会でいつも行われている分団に分かれて、食事と交わりの時を持ち、それぞれの教会で奉仕されているこころの友伝道の状況や働き方について、一人ずつ話されました。この講習会で学んだことを教会で実践して行きたいと思いません。

秋保 寛子

5月5日(金)の晴れやかな日、清水ヶ丘教会にてたくさん笑顔と熱気につつまれ、第45回関東こころの友伝道講習会が開かれました。学びの感謝を込めてお祈りを捧げます。

「天におられる私たちのお父さま、御名を崇めます。私たちがこの講習会に導いてくださったことを感謝いたします。御国が広がりますように。」

私たちが小さなキリストとなり、『福音のためなら、私はどんなことでもします。第1コリント9・23』というパウロの言葉通りになれるよう、私たちを強めてください。初めて教会にいらした方の心を理解できるよう、私たちに暖かい心をお与えください。私自身がそうであったように、教会に偏見を持つ人や、自分には教会に行く資格がないと思っている人をお赦しください。人々の『潜在的』求道心を『顕在的』なものへと変えてください。どうか多くの人があなた様の御愛を知ることができるようになります。

イエス様の御名によって感謝してお祈りいたします。アーメン」



6～8月 行事予定

6月

- 4日 ペンテコステ礼拝
 11日 花の日礼拝
 18日 JC父の日親子礼拝
 21日 三教会統一祈祷課題祈祷会

7月

- 2日 洗礼式
 8～9日 説教者・片平貴宣師
 (東調布教会アシラムのため)
 (安藤師助言者として出張)
 22～23日 第36回岡村アシラム
 (助言者・杉本和生師)
 30日 三教会交流講壇交換(愛澤師)

8月

- 5日 JC夏期学校(於・教会)
 13日 創立記念礼拝(利川明子姉)
 28～30日 こころの友伝道全国大会
 (北海道・旭川六条教会)

(毎月第1主日 聖餐式、役員会)
 (毎月第4主日 各会の定例会)



新年度に当たって

安藤 善枝

2017年度のJCがスタート致しました。子ども達は元気で、現在20名程の子が来てくれます。しかし、スタッフがこの所、急に減少し、今は5名で奉仕をしております。皆で力を合わせ、よく話し合い祈りあつて行かなければと思わされています。新年度には新しい子ども達がお母さんと一緒に来てくれます。心温かくお迎えし、一緒に礼拝する事を喜んで行きたいと思っています。

イースターには卵探しゲームを外で行



たまご見つけたよ!



見つけた人は礼拝堂に集合!

う事が出来ました。当日は朝から晴天でホッとしました。教会の周りの草木の中や、鉢の中にゆつくりと卵を隠しました。「ゴー!」の掛け声で、みな一目散!汗を流しながら一生懸命卵を捜しました。すぐ見つける子、なかなか見つけられない子。いろいろでしたが、とても楽しかったです。

新しい一年間を、神様の手の中で祈りつつ勧めて行きたいと思えます。

集会案内

◎ 創立記念礼拝

日時 8月13日

証し者・利川明子姉

◎ マリア会土曜交わり会

(ゴスペルグループを迎えて)

日時 9月9日 AM 10:30

◎ 特別伝道集会

講師 藤井圭子先生

日時 10月14日 PM 2:00

10月15日 AM 10:30

PM 1:30

編集後記

主に支えられて、「岡村の泉」夏号が発行できましたことを感謝いたします。

今年度、私たちの教会は安藤牧師の辞任と云う過渡期を迎えて大きな変化の年となります。

自分自身の信仰が訓練され、霊的成長へと導かれますように、信仰の友と共に祈り会いながら、神様の御旨を待ち望んでいます。

(M・I)